

Shion Sho
Urara Ichiki
Nanako Suzuki

Annual Report 2019-2020

<SUN のプロジェクト>

学生にリサイクルの意識を持たせる

ために

学校にリサイクルボックスを設置する！！

<プロジェクトを始めた動機、目標>

ゴミのリサイクル問題は常に多くの国で話し合われている国際的な問題だ。

私たちの住む社会では一日に多くのゴミを生み出している。自分たちの生活している環境から、路上などに捨ててある目に見えるゴミを減らして心地よく暮らせる街を作りたいと思った。

(不法投棄されたペットボトル)

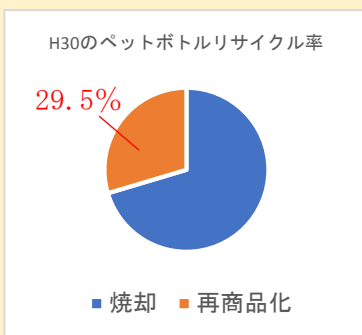
現状を知るため、渋谷の繁華街でゴミ拾いに参加した。すると、タバコや紙くずなどの細かなゴミだけでなく、誰もが使用するペットボトルのゴミが大量に不適切に投棄されていることを知った。



私たちは身近なところからゴミを減らそうと考え、街中に捨ててあるペットボトルの回収、リサイクルに注目した。

日本では、プラスチックリサイクル率が 84%あると発表しており、この数字だけ見るとすごい量のリサイクルがされているのかと思ってしまう。実際は、世界の基準に従い、廃プラスチックを原料として再利用することをリサイクルだと定義つけると約 23%しかリサイクルされていないのが現状だ。

平成 30 年では、販売されたペットボトル 58.7 万トンに比べて、リサイクルされ再商品化したものは 17.3 万トンで全体の約 29.5%であった。



先に記した 84%から 23%に減ってしまう理由として、ペットボトルなどでは汚れが付いているものは手間や費用の関係でそのままリサイクルに回すことができず、可燃ゴミとして焼却されている現状がある、ということが一つあるだろう。また、資源の回収システムが少なくなっていることも一つであるだろう。

そこで私たちは、世界的に見ても高いとは言えないリサイクル率を 23%から引き上げるために、乏しい回収システムを普及させることを目標とした。

スーパーやコンビニなどでは回収ボックスの設置がなされてきたが、私たちの普段通っている学校にはきちんとしたペットボトルの回収システムが整っていないため、



(セブンイレブンの回収ボックス)

新しい回収システムを導入しようと考えた。

まず私たちは、学校の清掃員に話を伺ったところ、ペットボトル用のゴミ箱があるにもかかわらず、一日に平均約 10 本程度しかそこに捨てられていないことを知った。それ以外のペットボトルはきちんと分別せずに教室の不燃ゴミのゴミ箱に捨てられている状態だ。

そこで私たちは、生徒が進んでペットボトルのゴミを捨てたいと思うような回収ボックスを設置しようと考えた。

<解決策>

生徒がペットボトルを捨てるのを楽しめて、リサイクルに積極的になれるような回収ボックスを提案する。

以前このプロジェクトを始めた際に、校内でゴミに関するアンケートをとったところ、捨てたくなるゴミ箱の第 1 位が「ゴミで投票できるゴミ箱」だった。

そこでわたしたちは回収ボックスを設置すると同時に、そこにゴミを捨てると校内投票に参加できる制度をつけようと考えた。

また、私たちは災害の多い日本で自然災害により停電などが起こった際に暗いところでも道しるべになるように、日中光を集めて暗くなると光る蓄光塗料をゴミ箱の表面に使用した。



(単位:cm)

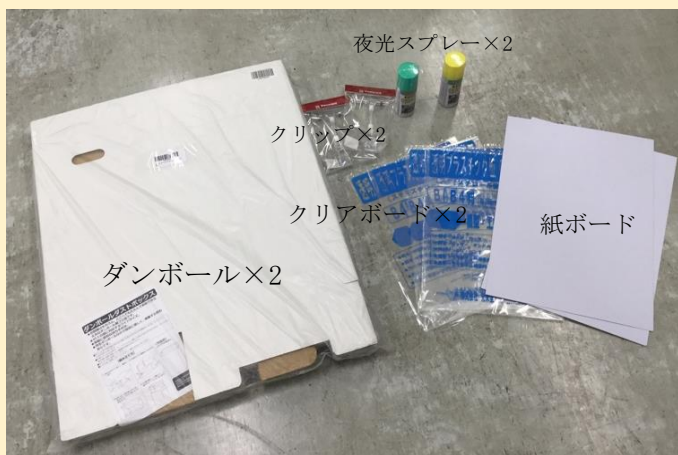
<方法、資源>

材料

- ・ダンボールゴミ箱×2
- ・夜光(蓄光)スプレー×2
- ・クリップ×2
- ・紙ボード
- ・クリアボード×2

ゴミ箱2つで合計

6978 円!



また、使用している間に汚れたり臭いについたダンボールは、資源としてリサイクルできる。
簡単に制作できるので誰でも真似できる。

<これまでの成果>

新型コロナウイルスの影響により、本来試験的に校内で設置する予定が短くなってしまったため、2日間だけの実施となった。

私たちは生徒になじみのあるテーマとして、

“来年度から本校に導入されるポロシャツを購入するか”
というアンケートにしたことから、2日間21人の人がペットボトルを綺麗に分別してリサイクルボックスに捨ててくれた。

また、投票に参加してくれた生徒からは

「ゴミ箱を覗かなくても投票の状況がわかるのが良い」

「投票の内容が親しみやすい」

などの意見をいただいた。

これらのことから、まずは設置したリサイクルボックスに興味を持ってもらうことが重要で、多くの方は投票の結果が気になるのでいつもよりもゴミ箱に目を配る印象だった。

?! HOW TO ?!

(事前準備:カッター、テープ、ペン)

Step1 ダンボールを切り込みにそって組み立てる

Step2 ダンボールの正面を中が見えるようにカッターで切り抜く

Step3 クリアボードを2で切り取った部分に、後ろからテープで貼り付ける

Step4 側面に、書きたい文字を夜光スプレーで塗装する

Step5 1~4を繰り返す

Step6 校内投票したい内容をペンで紙ボードに書く

Step7 2つあるゴミ箱と紙ボードをクリップで固定したら完成

所要時間なんと **1時間!**



<今後の展望>

私たちは、ペットボトルのリサイクルの意識を学生のうちから育てたい。という考えから学生が楽しんで捨てられる仕組み(投票)を導入した。高校生や大学生は、自主性や主体性を重んじて行動するため、その時期に学校で回収ボックスに分別して捨てることを選択したら、その人の将来の意識形成にもつながると考えた。

だから、学校で実施する意味がある。簡単に誰でも作れるリサイクルボックスであることから、他校でも同じように実施することが可能だと考えた。

〈SDGsとの関連性〉



つくる責任 つかう責任

私たちは日々ペットボトルを使用する立場にあり、私たちのプロジェクトにより学生のペットボトルのリサイクルの意識を形成し、「ラベルをはがす 中身をきれいにする キャップを分別する」ことを、リサイクル工場での効率が良くなりコストを削減することができる。



エネルギーをみんなに そしてクリーンに

リサイクルの意識を学生のうちから高めることで、将来的に日本全体のペットボトルのリサイクル率があがる。そうすると、リサイクルされずに焼却されていたペットボトルが少なくなる。さらに、焼却する際につかうエネルギーも削減することができる。

〈参考文献〉

<https://www.jcpra.or.jp/recycle/recycling/tabid/423/index.php>

「日本容器包装リサイクル協会」
(アクセス日：2019.01.24)

<https://22nd-century.jp/environment-issues/japan-3type-recycling/>

「22世紀を生きる君へ」
(アクセス日：2019.01.24)

〈チーム内での役割〉

私たちは3人チームで、普段は部活や委員会が違い、時間がなかなか合わない中、SNS のビデオチャットを使用して話し合いをしている。

週に1回集まるときは、大学生サポーターとともに意見を出し合い、まとめ、フィールドワークやゴミ箱制作など、SAGE にかかわる活動は基本的に3人で一緒に行っている。



蔣思音 (しょう しおん) *チームリーダー
持ち前のリーダーシップで意見をまとめる
パソコン作業が得意



一樹麗 (いちき うらら)
調べ物をするとき広い分野からの文献を集める
知識や発想力がある



鈴木南菜子 (すずき ななこ)
発言力、発想力を持ち、話し合いのときに新しいアイデアを多く見出す

〈最後に〉

私たちは3人で活動していく中で、たくさんの壁にぶつかった。そんなとき助けてくださった大学生サポーターの藤本さんや教頭先生、また、校内アンケートや校内でのリサイクルボックス設置と実施に協力していただいた中央大学高校の教師と生徒の全員に感謝の気持ちを伝えたい。

それとともに、私たち3人の SAGE の活動を応援してくださった家族にも感謝の気持ちを伝えたい。